

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【公開番号】特開2011-121615(P2011-121615A)

【公開日】平成23年6月23日(2011.6.23)

【年通号数】公開・登録公報2011-025

【出願番号】特願2009-281228(P2009-281228)

【国際特許分類】

B 6 5 D 33/00 (2006.01)

B 6 5 D 33/25 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 33/00 C

B 6 5 D 33/25 A

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月13日(2012.7.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

前記リブの厚さ寸法（D）は、前記リブの前記薄肉部から突出する高さ寸法及び前記薄肉部の厚さ寸法の和であり、

前記リブの厚さ寸法（D）と前記厚肉部の厚さ寸法（D 2）との比（（D）／（D 2））が、0.8 以上 1.2 以下であることを特徴とする請求項 1 に記載のジッパーテープ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

前記接着層は、前記帯状基部及び前記カット部に用いられる樹脂よりも融点が高いポリオレフィン系樹脂であることを特徴とする請求項 4 に記載のジッパーテープ。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

（2）また、前記リブの厚さ寸法（D）は、前記リブの前記薄肉部から突出する高さ寸法及び前記薄肉部の厚さ寸法の和であり、前記リブの厚さ寸法（D）と前記厚肉部の厚さ寸法（D 2）との比（（D）／（D 2））が、0.8 以上 1.2 以下であることが好ましい。

（3）そして、前記厚肉部の厚さ寸法（D 2）と前記薄肉部の厚さ寸法（D 1）との比（（D 2）／（D 1））は、3 以上 12 以下であることが好ましい。

（4）また、前記帯状基部、前記一对の厚肉部及び前記リブの一面には、接着層を有したことが好ましい。

（5）さらに、前記接着層は、前記帯状基部及び前記カット部に用いられる樹脂よりも融

点が高いポリオレフィン系樹脂であることが好ましい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

【図 1】本発明に係る実施形態のジッパーテープ付き包装袋を示す正面図。

【図 2】図 1 の II-II 断面図。

【図 3】前記ジッパーテープ付き包装袋のカット部を拡大して示す断面図。

【図 4】前記ジッパーテープ付き包装袋のノッチ部分近傍を拡大して示す正面図。

【図 5】他の実施形態のジッパーテープ付き包装袋を示す断面図。

【図 6】比較例 1 に係るジッパーテープ付き包装袋を示す断面図。

【図 7】比較例 2 に係るジッパーテープ付き包装袋を示す断面図。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

雌側帯状基部 40 は、帯状基部本体 41 と、この帯状基部本体 41 に一体的に連結された雌部材としての第一のフック部 42 及び第二のフック部 43 を有する。第一のフック部 42 及び第二のフック部 43 は、互いに対向している。

第一のフック部 42 及び第二のフック部 43 は、雄側帯状基部 50 の頭部 53 に係脱可能に咬合して咬合部 6 を構成する。

また、雌側帯状基部 40 は、内面 211A に対向する袋側面 40A を有し、袋側面 40A には、袋側面 40A を内面 211A に接着させるための接着層としてのシール層 40B が積層されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

そして、薄肉部 46 は、幅寸法が 0.5mm 以上 5mm 以下であることが好ましく、より好ましい範囲は 1mm 以上 3mm 以下である。薄肉部 46 の幅寸法が 0.5mm 未満の場合、リブ 47 を形成することが困難になる場合がある。一方、薄肉部 46 が 5mm を超える場合、カットライン C (図 4 参照) をリブ 47 に沿って誘導することができない場合がある。

そして、第一及び第二の厚肉部 45A、45B の厚さ寸法 (D2) と、薄肉部 46 の厚さ寸法 (D1) との比 ($(D2)/(D1)$) は、3 以上 12 以下であることが好ましく、さらに好ましくは、5 以上 10 以下である。

ここで、前記比 ($(D2)/(D1)$) が 3 よりも小さい場合、薄肉部 46 が内面 211A に接着してしまう場合がある。

一方、前記比 ($(D2)/(D1)$) が 12 よりも大きい場合、薄肉部 46 が折れ曲がりやすくなり、前記のような問題が生じるおそれがある。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

[ジッパーテープ付き包装袋の開封]

次に、本実施形態の包装袋1を開封する方法を説明する。

図4は、ジッパーテープ付き包装袋のノッチ部分近傍を拡大して示す正面図である。

開封するときは、ノッチ25の開口部24側の基材フィルム21と、封入物側の基材フィルム21とを把持し、ノッチ25を引裂開始部として、前後に引き裂くようにして開封する。ここで、リブ47が内面211Aに接着されているので、引張強度が小さい薄肉部46、56に応力が集中し、その応力が集中した薄肉部46、56にて切断される。従って、応力が集中した薄肉部46、56が切断されるので、1箇所では切断されない。つまり、カットラインC（一点鎖線）は1本のみとなる。そして、リブ47、57により位置決めされるため、カットラインCは、直線状となり、蛇行しない。

その後は、ジッパーテープ3の咬合部6を解除することによって、包装袋1を開封することができる。再封する場合には、第一のフック部42及び第二のフック部43と頭部53とを咬合させて、咬合部6を咬合状態とすればよい。